

農林水産政策研究所だより

Primaff News

VOL.20 平成21年8月31日発行



所長就任挨拶

中国都市部の食料消費構造の変化と日本の対中国農水産物輸出



農林水産省



所長就任挨拶

農林水産政策研究所長
長 清

去る7月14日、齊藤前所長の後任として、農林水産政策研究所長を拝命いたしました。この場をお借りして、皆様方に一言ご挨拶申し上げます。

農林水産政策研究所は、農林水産省の所掌する政策に関する総合的な調査および研究を行う機関として平成13年4月に設立されました。今日までの間、とりわけ平成18年度以降においては当研究所による政策研究の成果が行政部局における政策の企画・立案により一層活用されるよう、いろいろな改革に取り組んでまいりました。

具体的には、多様な行政ニーズに対応するための政策研究の枠組みの構築、行政部局との十分な調整を図った上での政策研究課題の決定、領域・チーム制の導入による機動的な研究体制の整備を進めてきており、これらを踏まえて、平成19年12月には「農林水産政策研究所政策研究基本方針」を策定し、その明確化を図ったところです。

また、第三者による機関評価を新たに導入し、毎年その評価を踏まえ運営の改善を進めております。

さらに、昨年秋には研究所の霞が関地区への移転を行い、それまでの霞が関の分室も一体化しました。これにより従来以上に農林水産本省各局との連携が強化され、研究所として有機的・総合的な運営が可能となり、研究成果も上がり、行政への貢献も高まることが期待されています。

食料・農業・農村をとりまく情勢の変化は一層大きなものとなっており、これに対応して、より一層スピード感をもって研究場面においても対処することが求められています。平成21年度の研究課題においても、世界の食料需給の中長期的な見直しに関する研究などの食料の安定供給分野、水田・畑作経営所得安定対策導入に伴う農業経営・農地利用集積等の動向の分析を目的とする国内農業の体質強化分野、地域の活性化の要因分析を行う農山漁村の活性化分野、さらに、新たな農林水産環境政策の社会経済的影響評価に関する研究を行う環境対策分野の4分野を重点研究分野として活動を進めていくこととしています。

また、関係する諸研究機関、大学などともより一層交流・連携を強化していくことが重要となっております。さらに、OECD、FAOなどの国際機関との関係強化も必要です。そういった意味で、当研究所が農業政策研究の広く世界に開かれたフォーラムとなっていくことが求められていると考えております。

当研究所がその使命を果たすことができるよう、職員とともに一丸となって努めてまいり所存です。関係の皆様方のご支援、ご鞭撻を心からお願い申し上げます。

中国都市部の食料消費構造の変化と日本の対中国農水産物輸出

農林水産政策研究所

河原昌一郎・明石光一郎

はじめに

中国の食料消費は、経済成長に伴う国民の旺盛な消費需要を背景として急速に拡大しつつあるが、そうした中で食料消費構造はどのように変化しているのだろうか。また、日本から中国への農水産物輸出にどのような影響を与えているのだろうか。

当研究所では、こうした問題意識のもとに、中国都市部の食料消費構造の変化と日本の対中国農水産物輸出の動向に関する研究を行った。ここでは、この中から、食料支出額の消費支出弾性値の推移、所得階層間の食料消費の品質格差、日本の対中国農水産物輸出の動向を紹介する。

1. 食料支出額の消費支出弾性値の推移

中国都市部の食料支出額の消費支出弾性値（1人当たり）は第1表のとおりである。（注：「食料支出額の消費支出弾性値」は、ある人の消費支出額が全体で1%増加したときに、当該食料の支出額が何%増加したかを示したもの。弾性値が高い食料ほど消費が大きく伸びていることを示す。）

水産物と生乳・乳製品の消費支出弾性値は継続的に高い値を示しており、今後の消費の拡大が見込まれる。肉類および卵類の消費支出弾性値は以前に比較すると低下してきている。食糧は消費支出弾性値が低く、消費支出額に占める比率は縮小していきこう。

第1表 中国都市部の1人当たり食料支出額の消費支出弾性値の推移

	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
食糧	0.53	0.52	0.51	0.49	0.47	0.41	0.39	0.34	0.35	0.36
肉類	0.80	0.79	0.75	0.72	0.70	0.69	0.66	0.63	0.63	0.59
卵類	0.68	0.67	0.64	0.61	0.59	0.49	0.48	0.46	0.47	0.48
水産物	0.88	0.87	0.86	0.83	0.80	1.14	1.07	1.03	1.01	0.99
生乳・乳製品	1.07	1.12	1.11	1.05	1.03	1.14	1.10	1.00	0.96	0.90
果物	0.86	0.83	0.82	0.78	0.76	0.67	0.67	0.64	0.66	0.65

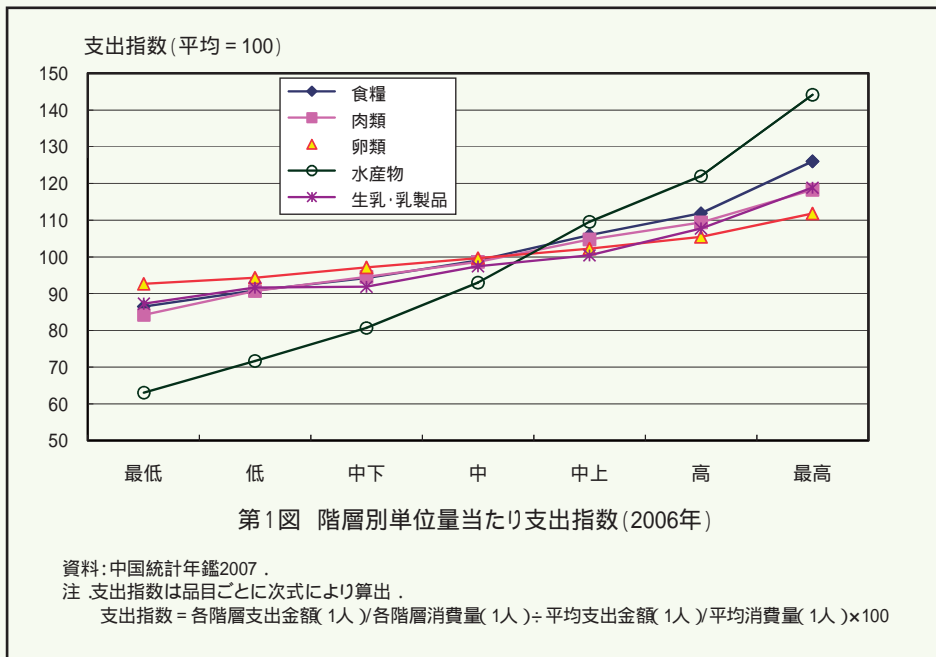
注:1. 毎年の中国統計年鑑の数値からクロス・セクション(ウェイト付き最小二乗法)で計測した。

2. 果物は支出額の統計がないため、購入量の弾性値。

2. 所得階層間の食料消費の品質格差

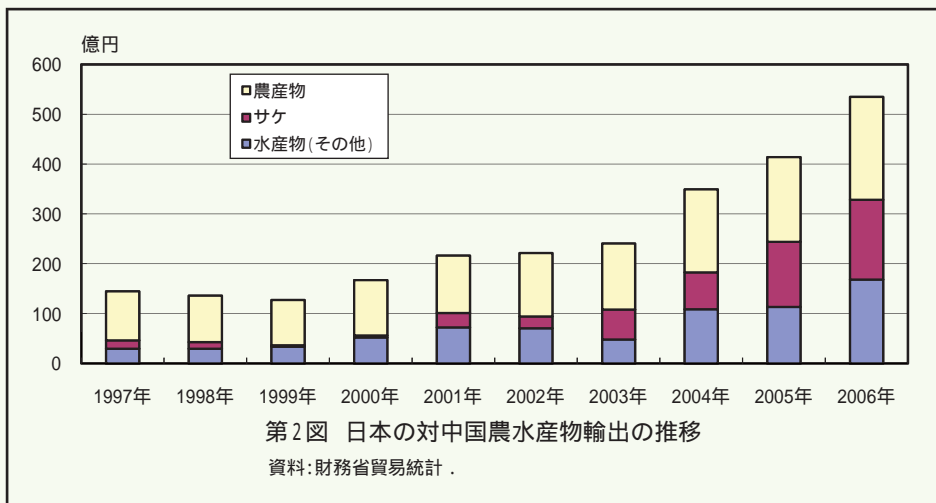
第1図は所得階層を7つに分け、各階層の単位量当たり支出指数を示したものである。（注：「単位量当たり支出指数」は、各階層の1単位量当たり支出額を平均支出額と比較したもの。指数が高いほど高品質・高価なものを購入していることとなる。）

水産物は階層間の品質格差が最も大きく、高所得者の高品質水産物に対する需要は強い。食糧はスーパーでの高級米販売等の事情を反映して、階層間で一定の品質格差が見られる。卵類は階層間の品質格差が少ない。



3. 日本の対中国農水産物輸出の動向

中国都市部の旺盛な食料需要の増加を反映して、第2図のとおり、日本の対中国農水産物輸出は大きく伸びている。高所得者の需要の大きい水産物の輸出の伸びは著しく、とりわけサケの輸出はきわだっている。中国では高級な果物の輸出の伸びも大きい。



編集後記

みなさんは7月22日の皆既日食を見ることができましたか？東京の天気は曇りだったので、私は早々にあきらめてしまいましたが、外出先で雲の向こうに太陽が欠けているのを見たと言いました。

2035年にはまた能登半島と茨城県を結ぶ一帯で見られる予定です。その時はぜひ観測したいと思います。

Primaff News

- 農林水産政策研究所だより -
VOL.20 平成21年 8月31日発行
農林水産省農林水産政策研究所
企画広報室広報資料課
TEL: 03-6737-9012



バックナンバーはHPをご覧ください。
<http://www.maff.go.jp/primaff/koho/seika/news>